

平成30年度 学校自己評価

中津市立 城井小学校

1. 教育目標 【かしこく・ゆたかに・たくましく】 児童が将来社会で活躍するために、①自ら学び・創造・表現する力、②自他を大切にできる力、③成長するための行動力を育成する。
2. 重点目標 ① 小学校時代に習得すべき学力の基礎・活用力の向上 (基盤軸) B
 ② 中学、将来につながる力の育成 (成長軸) G
 ③ 総合力の向上 (マネジメント軸) M
3. 重点目標・達成指標、重点的取組等

評価判断基準	
A	…達成率90～100%
B	…達成率70～89%
C	…達成率60～69%
D	…達成率60%未満

*1: 取組指標に対する評価 (達成指標に対する評価)

重点目標	達成指標	重点的取組	取組指標	評価 (*1)	成果(○)と課題(●)、及び次学期に向けての具体的取組(☆)	
1 学 期	小学校の時代に習得すべき 活用力の向上 (基盤軸) B	■学力に関する達成指標 1「中津市学力状況調査(国語・算数)」結果 [基礎] ・個人目標値を上回る学級: 【国語】100% 【算数】100% [活用] ・個人目標値を上回る児童: 【国語】80% 【算数】80% 2「単元テスト(国語・算数)」結果 ・平均80%以上の児童: 【国語】80% 【算数】80%	学校 【授業改善】 ・授業において、友だちの考えを最後まで聴き、それに対して自分の考えを持ち伝えることができる。(B1)*新大分、城井小スタンダードは継続 【基礎力向上】 ・小単元の終了ごとにテスト等で理解できたかの振り返りをし、定着を図る。(B2)*チャレンジタイムは継続 【活用力向上】 ・授業や家庭学習で、応用問題を解かせたり、条件付きの文章を書かせたりする。(B3)	・児童は授業を振り返り、結果をチェックカードに記入する。(毎日) ・教師は取組チェックシートに記入(毎日) ・結果集約し検証・改善検討(月1回) ・小単元毎に振り返り問題を解かせ、理解度を把握し、学び直しや個別指導をする。(小単元毎)	A (B)	○1学期前半に比べ、児童自己評価(毎日チェック)が向上した。 ・他の考えを聴き、自分の考えを伝える 74.9% (5月) → 84.3% (7月) ○児童の1学期アンケート結果 ・授業が楽しい 84.6% ・授業がよくわかる 89.7% ・主体的取組 59.0% ・自分の考え発表 76.9% ・ふりかえり 82.1% ・話をよく聞く 87.2% ●単元テスト80(70%)以上の児童 国語66.7(84.6)%算数71.8(82.1)% ○教職員授業取組10項目B以上 77.5% (5月) → 81.9% (7月) ●主体的に学びきれていない児童がいる。 ☆課題解決を楽しめる体験を週1回取り入れる。(話し合う楽しさ) ○ふりかえり問題により、理解度の把握ができた。 ●個別指導の時間がとれない。 ☆学び直しや個別指導の時間確保の検討 ○応用問題に進んで取り組もうとする児童が増えた。 ●依然として自信が持てず取組に消極的な児童もいる。 ☆生活に根ざした問題に取り組ませる。
		家庭 ・家庭学習を習慣化させる。(B4)	・宿題の出来具合の確認(毎日) ・各学年の学習時間のめやすや宿題の仕方や出来具合について、学級懇談で話したり、学級通信塔で知らせたりして、協力を求める。(学期2回)	A (B)	○1学期末の保護者アンケートによると、決まった時間に家庭学習している家庭が82.1%であった。 ○宿題の出来具合の毎日確認実施。提出状況はよい。 ●家庭での宿題確認状況で、保護者と児童で、意識の差が見られる。 ☆「即学の手すめ」を基に家庭学習への更なる協力を求める。	
		地域 ・学校公開に参加する。(B5)	・学校便りなどで、児童の様子を知らせる。(月1回) ・学校公開日(参観授業・公開授業)への参加を呼びかける。(学期3回)	A (B)	○参観授業・公開授業への参加呼びかけはできている。 ☆引き続き学校公開への参加を呼びかけ、参加人数を増やす。	
		学校 【あいさつ進化】 ・すすんであいさつができるようにさせる。(G1) 【言葉遣い】 ・「です、ます」をつけたていねいな言葉づかいができるようにさせる。(G2) 【自己肯定感】 ・「いいところみつけ」で自分のいいところを発見できるようにする。(G3)	・自己評価でふりかえらせる。(毎日) ・自己評価の結果を集計し、翌月子どもたちに自己評価結果を知らせ、意欲づけをする。(月1回)	A (A)	○1学期前半に比べ、3項目全ての児童自己評価(毎日チェック)が向上した。 ・あいさつ 85.9% (5月) → 92.3% (7月) ・言葉遣い 76.5% (5月) → 84.9% (7月) ・いいところみつけ 63.1% (5月) → 82.7% (7月) ○児童の1学期アンケート結果 ・自他を大切にする(自分を生かす、他を思いやる) 89.7% ・明るくあいさつ 82.1% ・相手を考えた言葉遣い 74.4% ●「いいところみつけ」の項目では、まだ自信の持てていない学年があった。 ☆引き続き、自己評価でのふりかえりをさせながら、子どもたちの意欲づけを行っていく。	
		家庭 ・学校であったことを話す時間を増やす。(G4)	・学期ごとのアンケートの項目に入れる。(学期1回) ・学級通信で学校行事等を知らせる。(月1回以上)	A (B)	○1学期末の保護者アンケートによると、子どもの話をよく聞いてあげている家庭が89.7%であった。	
		地域 ・子どもたちのあいさつの様子を気にかける。(G5)	・交通指導の折に、子どもの様子を聴かせてもらう。(月1回以上)	A (A)	○登校時に子どもたちの様子を地域の方に伺うと、「概ね良い」という評価であった。 ●あいさつには個人差があるので、個別の対応を行っていく。	
軸(総合力の向上) M マネジメント	■総合力に関する指標 ・教職員「目標達成に向けた一体感」 3/4以上 ・学校参観者拡大 前年比30%増 ・多様な人材参画による教育力向上 10回以上/年	学校 ・好循環サイクルを確立する。(M1) ・外部リソースの活用、地域連携の再構築に取り組む。(M2)*従来の地域交流は継続	・好循環サイクルの実施、数値化・見える化(月2回) ・自律改善活動(事象発生時) ・「世界チャレンジ」大会の企画・運営(月1回) ・「夢志講話」の運営(月1回) ・ネットワーク交流学習(全学年/年)	A (A)	○好循環サイクル、数値化・見える化の取組、自律改善活動 ○目標達成に向けた組織的取組 3,4/4(100%) ○外部リソース活用2施策(世界チャレンジ、夢志講話)の推進(月2回) ○多様な人材参画による教育力向上(5回) ○地域連携強化施策の推進(地域参加日、地域懇談会、みまもり応援立上げ) ●学校の更なる総合力向上、地域連携の再構築、ネットワーク交流学習 ☆多様な人材参画に向けた外部へのアプローチ	
		地域 ・学校教育に参画する。(M3)	・学校教育に対する評価(学期1回) ・地域各組織からのチャレンジ呼びかけ(2ヶ月1回) ・「夢志講話」の実施(月1回)	A (A)	○学校参観案内の領域拡大(6→14回)(1学期、従来方法比) ○学校訪問者拡大 31%増(1学期、従来方法比) ☆学校参観、授業参加、チャレンジ等 呼びかけの継続	